

令和 5 年 6 月 20 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19K00004

研究課題名(和文) 哲学と人類学との新たな交錯

研究課題名(英文) New Intersection Between Philosophy and Anthropology

研究代表者

檜垣 立哉 (Higaki, Tatsuya)

大阪大学・大学院人間科学研究科・教授

研究者番号：70242071

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、二一世紀に人類学における「存在論的転回」「生態論的転回」「ポストヒューマンの人類学」などの新潮流をうけ、従来にない新しい人類学と思想の交錯が生じている状況を踏まえ、人類学者と哲学者のあいだでおこなわれたものである。人類学の転回が一面では二〇世紀後半のフランス現代思想を踏まえるかたちで、ラトゥール、ヴィヴェイロス・デ・カステロ、ハラウェイの研究動向を軸に進展する事態を、日本のアニミズムの再評価などをも見据え、レヴィ＝ストロースやデリダ、ドゥルーズ以降のフランス思想との連関を辿りながら、各種研究会の開や海外発表をおこない、成果報告となる書物を勁草書房より刊行するに到った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

人類学は、二一世紀において、深くその理論的根拠の刷新を自ら求め、それをおこなうことにより、ポストヒューマン的な状況に対応しようとしてきた。その中ではレヴィ＝ストロース以降、デリダやドゥルーズ＝ガタリを含むフランス現代思想を利用するとともに、フランス思想側にもその反省を迫る部分があった。本研究では、人類学のこうした変容が、実践面でも思想面でも大きな転換を要求していることを前提に、哲学の側からの交錯的な検討を果たすことにより、その現代的意義をより明確にすることができた。こうした研究は各分野の交錯が再度求められている人文学研究においても、一定の意味があったと考えられる。

研究成果の概要(英文)：In response to new trends in anthropology in the 21st century, such as the "ontological turn," "ecological turn," and "post-human anthropology," this research has created an unprecedented intersection of anthropology and thought. It was conducted between anthropologists and philosophers in light of the current situation. The turnaround in anthropology is based on the French modern thought of the latter half of the 20th century, and it is centered on the research trends of Bruno Latour, Viveiros de Castelo, and Danna Haraway. While tracing the connection with French thought after Levi-Strauss, Derrida, and Deleuze, we held various research groups and made overseas presentations, and published a book as a report of the results from Keiso Shobo.

研究分野：哲学

キーワード：存在論的転回 アクターネットワークセオリー レヴィ＝ストロース ドゥルーズ＝ガタリ ポストヒューマン ブリュノ・ラトゥール 生態学的転回

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

本研究は、21世紀以降著しい、現代哲学と人類学との再交錯を背景とし、そのあり方と深度を問うべく、異分野の研究者の共同において行われるものである。現代哲学と人類学は、アクターネットワークセオリーや多自然主義など多くの思想的概念を生みだし、それらは哲学の新しい動きにも呼応しているが、伝統的な哲学や20世紀のすでに古典となりつつある現代哲学の世界から見たその意義は未だに確定していない。本研究においては、そのような背景から、かつてきわめて盛んであった哲学と人類学の再度の交錯を検討推進し、同時にその意義を推し量るものである。

### 2. 研究の目的

哲学と人類学の交錯を軸とした本研究は、21世紀になって、現代哲学の世界との関連性を深めている人類学と、それが提示する思想的概念との関連を、原理的な位相から再検討し、それぞれの分野にとっての意義を研究するものである。人類学はその成立以来哲学思想と深い関係にあったが、20世紀後半以降、アクターネットワークセオリーや多自然主義、パースペクティブイズムなど、これまでにない多くの概念をもたらし、再度哲学の最先端との関係を形成しつつある。哲学側での思弁的实在論や新唯物論の動きはこうした人類学の動きに呼応する。本研究は、現代哲学の研究者2名と人類学理論の研究者1名からなり、双方でそれぞれの側からの寄与を検討し、現在起きている両者の交錯が持つ意味を、それぞれの立場から検討し、それがどれほどの思想的深度をもつか、その影響力のあり方は今後どれほど本質的なものかを端的に問い直すことを目的とする。

### 3. 研究の方法

本研究は研究代表者を檜垣立哉(哲学・現代思想)、研究分担者を久保明教(人類学)および近藤和敬(哲学・現代思想)とし、この三名を軸としながら、哲学と人類学との交錯に関わるワークショップや国際会議を定期的開催し、哲学側、および人類学側との双方に関わる研究者をもまねきつつ、研究目的を果たしていくことにする。三者は大阪大学、一橋大学、鹿児島大学に在籍するため、三者の共同関係を緊密にするための会合を少なくとも年に数回、いずれかの大学においても、その都度のテーマをきめた検討をおこなう結果的に新型コロナの時期に重なったため、多くの会合はZoomにておこなわれた。檜垣はパリナンテール大学と共同ラボをもち、国際的な研究網のなかでの研究を推進することも視野にいれたが、これもZoomによるものとなった。

### 4. 研究成果

2019年度においては初年度であるため、まず研究の推進の仕方の打ち合わせやさまざまな書籍の購入をおこなうとともに、関係者の書籍の合評会という形式をとってワークショップを三度おこなうとともに、ガタリを巡る国際的なワークショップを開催した。とりわけ研究分担者の近藤和敬の『<内在>の哲学へ』青土社をめぐりワークショップと、久保明教の『ブルノ・ラトゥールの取説』を巡るワークショップがその中心をしめた。また国際ワークショップにおいては、人類学とも強い関連をもつガタリの思想を中心として、帝京大学のガタリ研究者 Joff Bradle と韓国の Kyung Hee University の Alex Taek-Gwang Lee を招へいして、英語でのワークショップを開催した。またこれらの成果はそれぞれの研究分担者の執筆したものにおいて公開されているとおりである。

2020年度においては今年度に関しては、科研費を利用した会合およびワークショップ、関連主題による国際学会発表などを計画していたが、コロナウイルス蔓延の状況を受けて、研究の進捗はとりわけ年度前半については相当の遅延および中断に追い込まれたことは事実である。とはいえ、後半についてはZoomなど遠隔を利用することで、いくつかの企画を、精力的におこなうことができたと考える。具体的には、科研費の関係において、研究分担者の近藤和敬の著作『ドゥルーズ＝ガタリの『哲学とは何か』を精読する』(講談社メチエ)の合評会、研究分担者久保明教の著作『家庭料理という戦場』(コトニ社)と檜垣の著作『食べることの哲学』(世界思想社)を巡るワークショップ、そしてレヴィ＝ストロースをつぐフランスの人類学者フィリップ・デスコラの『自然と文化を越えて』(水声社)の翻訳の合評会をおこなった。この合評会は、翻訳者の小林徹氏を招へいし、一回目は人類学の方面から、二回目はフランス哲学の方面から多角的に検討をおこなうものであり、相当の時間をかけて、人類学者・社会学者・哲学者のあいだで討議をおこなった。また澤田哲生『幼年期の現象学』合評会も行い、フランス哲学と幼児心理学の方向から当該科研にもかかわる内容の検討をおこなった。

2021年度においては、本年度においては哲学者4人と人類学社会学側で6,7名の研究者によって、本科研を一つのベースとして共同著作を作成するというものとして、本年度の研究はほとんどが、その発表および質疑応答、最終的に刊行されるべき原稿の執筆およびそのやりとり、相互的な疑問の提出と書き直しなど研究会の開催についやされた。なお、本科研は本年度が最終年限

であったが、もともと海外発表を予定していた予算などがコロナウイルスによる諸状況に選ってほとんど執行ができないため、来年度に繰り越し、これをもって書籍出版のための版下代にあて、本年度は Zoom などを介した上記の研究の遂行にほぼすべての研究を割くことにした。

2022 年度においては最終年度は、そもそも新型コロナウイルスの影響で一年延長したことに伴う残額を成果報告としての『構造と自然 哲学と人類学の交錯』檜垣立哉・山崎吾郎編勁草書房の出版についやすことになった。当方向書に変わる書籍のために、昨年度から当該年度にわたって、人類学者六名と哲学者三名が、コロナ禍のもとであったためおもに Zoom によるミーティングをもち、それぞれがまず原稿を持ち寄り発表したあとで、相互的な査読をおこない。書籍にしあげたものである。人類学と人間学のあいだには、二一世紀になってからの人類学自身の「存在論的／生態論的転回」を機縁として、かつては常態的であった哲学関係との交錯がさまざまな領域ではかられている。ブリュノ・ラトゥールのアクターネットワークセオリーや、コーンやヴィヴェイロス・デ・カストロらの人類学者は、哲学者であるドゥルーズやあるいは記号論者パースを重視しこれまでにないかたちで、二〇世紀のフランス思想を展開しつつ、フィールドの応用している。こうした事態に対して、最終年は、共著の書籍を刊行するかたちで、哲学者や人類学者自身がどのように考えとらえなおすかを明らかにした。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計26件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 檜垣立哉	4. 巻 51-3
2. 論文標題 媒介子・フラット・ポストモダン ラトゥールとフランス哲学	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 39-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 檜垣立哉	4. 巻 15
2. 論文標題 生物学主義と哲学 生き物を巡るハイデガーとデリダ(およびアガンベン)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Heidegger-Forum	6. 最初と最後の頁 33, 65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 檜垣立哉	4. 巻 155
2. 論文標題 食べることの自然 ―レヴィ＝ストロース『神話論理』瞥見―	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 季報 唯物論研究	6. 最初と最後の頁 92 - 103
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 檜垣立哉	4. 巻 49-7
2. 論文標題 リオタール『ポスト・モダンの条件』再読	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『現代思想』 青土社	6. 最初と最後の頁 32, 42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 檜垣立哉	4. 巻 8
2. 論文標題 相米慎二試論(2)――1985年の相米慎二	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 社藝堂	6. 最初と最後の頁 31,50
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 檜垣立哉	4. 巻 1170
2. 論文標題 神話論理のパロック	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『思想』岩波書店	6. 最初と最後の頁 122,139
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 檜垣立哉	4. 巻 49 - 15
2. 論文標題 大森荘蔵と西田幾多郎 現在と身体をめぐる	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『現代思想』青土社	6. 最初と最後の頁 115,126
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 桂悠介, 檜垣立哉	4. 巻 6
2. 論文標題 『サバルタンは語ることができるか』を読み直すために 共生のフィロソフィーの視点から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 共生学ジャーナル	6. 最初と最後の頁 1, 22
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久保明教	4. 巻 14
2. 論文標題 コントロールされた多義の誤謬：ヴィヴェイロス・デ・カストロにおける人類学的翻訳	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『くにたち人類学研究』	6. 最初と最後の頁 1, 18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤和敬	4. 巻
2. 論文標題 「ロトマンの数理物理学の理解と20世紀初頭のフランス哲学史」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ルベール・ロトマン (近藤和敬、中村大介、原田雅樹、米虫正巳訳・解説) 『数理哲学論集』	6. 最初と最後の頁 165 - 174
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 檜垣立哉	4. 巻 1162
2. 論文標題 パスという多面体	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 思想 岩波書店	6. 最初と最後の頁 135, 151
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 檜垣立哉	4. 巻 3
2. 論文標題 中野幹隆とその時代 第二回 吉本隆明の八〇年代	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 多様体 月曜社	6. 最初と最後の頁 253 - 270
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 檜垣立哉	4. 巻 134 - 807
2. 論文標題 狂気を描くひと 中井久夫によせて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 哲学雑誌 哲学会	6. 最初と最後の頁 50 - 69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 檜垣立哉	4. 巻 1158
2. 論文標題 九鬼周造の文学論	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 思想 岩波書店	6. 最初と最後の頁 111 - 124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 檜垣立哉	4. 巻 7
2. 論文標題 相米慎二試論(1) -- 最初期作品から80年代まで --	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 社藝堂 社会芸術学会	6. 最初と最後の頁 51 - 68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 檜垣立哉	4. 巻 15
2. 論文標題 食べないことの哲学 ラフスケッチ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 叢書セミオトボス	6. 最初と最後の頁 20 - 35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 檜垣立哉	4. 巻 1154
2. 論文標題 ジェームズの「モザイク」哲学	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 思想 岩波書店	6. 最初と最後の頁 141 - 156
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤和敬・酒井真道	4. 巻 71
2. 論文標題 学協会「実在論の可能性 インド哲学との対話」シンポジウム報告	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『哲学』(日本哲学会)	6. 最初と最後の頁 45-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤和敬	4. 巻 48 - 9
2. 論文標題 アラン・バディウの哲学と数学の関係についての批判的考察 : 「概念の哲学」のポスト・カヴァイエスの展開の諸相という観点から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代思想 青土社	6. 最初と最後の頁 225 237
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤和敬	4. 巻 88
2. 論文標題 カヴァイエスのスピノザ主義の再解釈の試み : 「l'absolu d'intelligibilitéの肯定」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『人文学科論集』鹿児島大学法文学部紀要	6. 最初と最後の頁 1 - 14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 近藤和敬	4. 巻 88
2. 論文標題 一八九二年のルネ・ヴォルムス『スピノザの道德 其の原理とそれが現代におよぼした影響の検討』 に至る、実証主義におけるスピノザ受容の歴史的概観	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『人文学科論集』鹿児島大学法文学部紀要	6. 最初と最後の頁 15-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 檜垣立哉	4. 巻 1141
2. 論文標題 「フーコーの人口論再考」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『思想』岩波書店	6. 最初と最後の頁 85, 96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 檜垣立哉	4. 巻 1150
2. 論文標題 「西田幾多郎のパロック」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『思想』岩波書店	6. 最初と最後の頁 57,72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 檜垣立哉	4. 巻 1
2. 論文標題 宮沢賢治と食 「ビヂテリアン大祭」について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 「文化の基層としての食」京都工芸繊維大学	6. 最初と最後の頁 57,69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤和敬	4. 巻 47 - 15
2. 論文標題 「ジルベール・シモンドンの個体化の哲学にみるアインシュタインの影響：特異性-場の二重分節としての個体化とアラグマティックな関係」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『現代思想』青土社	6. 最初と最後の頁 207-221
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤和敬	4. 巻 47 - 15
2. 論文標題 「かぞえかたのわからない巨大数は存在しないのか」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『現代思想』青土社	6. 最初と最後の頁 161-174
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件 (うち招待講演 8件 / うち国際学会 6件)

1. 発表者名 Tatsuya HIGAKI
2. 発表標題 Deleuze and Peirce 's Realism
3. 学会等名 Deleuze Guattari Studies in Asia, Seoul (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Tatsuya HIGAKI
2. 発表標題 On the Concept of "Involution" in Deleuze and Guattari: From the Standpoint of Viveiros de Castro 's Multiculturalism
3. 学会等名 Deleuze Guattari Studies 2020 in Prague (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 檜垣立哉
2. 発表標題 森やキノコの人類学と哲学
3. 学会等名 日本記号学会第41回大会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 檜垣立哉
2. 発表標題 生物学主義と哲学　生き物を巡るハイデガーとデリダ(およびアガンベン)
3. 学会等名 ハイデガー・フォーラム（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Tatsuya HIGAKI
2. 発表標題 Kuki and Nishida on the Present: The Eternal Now and Contingency
3. 学会等名 Kyoto in Davos, Hildesheim University（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 久保明教
2. 発表標題 「汎構築主義の射程　ブルーノ・ラトゥールにおける自然と社会」
3. 学会等名 日本社会学理論学会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 久保明教
2. 発表標題 「ハイブリッドはいかに忘却されるか 現代将棋におけるソフトのツール化」
3. 学会等名 『人と情報テクノロジーの共生のための人工知能の哲学2.0の構築』研究会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 久保明教
2. 発表標題 「スポーツ×テクノロジーの人類学 ハイブリッドの忘却と人間の生成」
3. 学会等名 スポーツ社会学会学生フォーラム（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Tatsuya HIGAKI
2. 発表標題 The Role of Peirce in Deleuze
3. 学会等名 Deleuze Guattari Studies (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tatsuya HIGAKI
2. 発表標題 On Shuzo Kuki 's Theory of Sound Patterns: The Multi-layered Nature of the Repeated Present
3. 学会等名 European Network of Japanese Philosophy (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tatsuya HIGAKI
2. 発表標題 Animals and Humans
3. 学会等名 Deleuze India Collective (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計23件

1. 著者名 檜垣 立哉	4. 発行年 2022年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 346
3. 書名 バロックの哲学	

1. 著者名 檜垣 立哉、杉山 直樹	4. 発行年 2022年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 320
3. 書名 ベルクソンの哲学 生成する实在の肯定	

1. 著者名 檜垣立哉	4. 発行年 2022年
2. 出版社 青土社	5. 総ページ数 416
3. 書名 日本近代思想論	

1. 著者名 檜垣 立哉、山崎 吾郎	4. 発行年 2022年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 260
3. 書名 構造と自然	

1. 著者名 檜垣 立哉	4. 発行年 2023年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 448
3. 書名 生命と身体	

1. 著者名 床呂 郁哉	4. 発行年 2021年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 368
3. 書名 わざの人類学	

1. 著者名 アルベール・ロトマン 近藤和敬他訳	4. 発行年 2021年
2. 出版社 月曜社	5. 総ページ数 192
3. 書名 『数理哲学論集』	

1. 著者名 エリザベス・グロス、檜垣 立哉、小倉 拓也、佐古 仁志、瀧本 裕美子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 212
3. 書名 カオス・領土・芸術	

1. 著者名 檜垣立哉 分担執筆 第2章	4. 発行年 2020年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 320
3. 書名 世界哲学史 8	

1. 著者名 Tatsuya HIGAKI	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Mimesis international	5. 総ページ数 193
3. 書名 Nishida Kitaro's Philosophy of Life	

1. 著者名 檜垣立哉 分担執筆 第8章	4. 発行年 2021年
2. 出版社 大阪大学出版会	5. 総ページ数 250
3. 書名 越える・超える	

1. 著者名 久保明教 分担執筆「テクノロジーと情動(アフェクトゥス) 現代将棋における機械と人間」	4. 発行年 2020年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 460
3. 書名 アフェクトゥス(情動)	

1. 著者名 近藤 和敬	4. 発行年 2020年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 608
3. 書名 ドゥルーズとガタリの『哲学とは何か』を精読する 内在 の哲学試論	

1. 著者名 近藤和敬 分担執筆 ドゥルーズとガタリの「政治哲学」という未解決問題 『天然知能』と『イメージの人類学』の観点から」	4. 発行年 2020年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 460
3. 書名 アフェクトゥス(情動)	

1. 著者名 近藤和敬 分担執筆 「ヴィクトル・デルボスによるスピノザ解釈の特異性 一八九〇年代の文脈の比較において」	4. 発行年 2021年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 354
3. 書名 『スピノザと十九世紀フランス』	



1. 著者名 檜垣 立哉	4. 発行年 2019年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 256
3. 書名 ドゥルーズ	

1. 著者名 床呂 郁哉、河合 香史	4. 発行年 2019年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 306
3. 書名 ものの人類学 2 檜垣立哉「<もの自体>を巡る哲学と人類学」	

1. 著者名 志水 宏吉、河森 正人、栗本 英世、檜垣 立哉、モハーチ・ゲルゲイ、木村友美、藤目ゆき、山本ベバリアン、澤村信英、稲場圭信、渥美公秀、宮前良平、山崎吾郎、山本晃輔、藤高和輝	4. 発行年 2020年
2. 出版社 大阪大学出版会	5. 総ページ数 340
3. 書名 共生学宣言 檜垣立哉「「共生」の位相を巡る思想史—小さな物語の横溢?大きな物語の欺瞞?」	

1. 著者名 Anne Querrien(編)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Herman	5. 総ページ数 418
3. 書名 Agencer les multiplicite; avec Deleuze, HIGAK Tatsuya, l De la metallurgie au cyborg	

1. 著者名 近藤和敬	4. 発行年 2019年
2. 出版社 青土社	5. 総ページ数 544
3. 書名 内在の哲学 へ	

1. 著者名 久保 明教	4. 発行年 2019年
2. 出版社 月曜社	5. 総ページ数 268
3. 書名 ブルーノ・ラトゥールの取説 : アクターネットワーク論から存在様態探求へ	

1. 著者名 久保明教	4. 発行年 2020年
2. 出版社 コトニ社	5. 総ページ数 216
3. 書名 「家庭料理」という戦場	

1. 著者名 松村 圭一郎、中川 理、石井 美保	4. 発行年 2019年
2. 出版社 世界思想社	5. 総ページ数 224
3. 書名 文化人類学の思考法 久保明教「呪術と科学 私たちは世界といかにかかわっているのか」	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	久保 明教  (Kubo Akinori)  (00723868)	一橋大学・大学院社会学研究科・教授    (12613)	
研究分担者	近藤 和敬  (kondou Kazunori)  (90608572)	鹿児島大学・法文教育学域法文学系・准教授    (17701)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関